

2026 年度学会賞・学会功労賞・奨励賞・ 女性 Analyst 賞候補者推薦について

日本分析化学会は、2026 年度の学会賞・学会功労賞・奨励賞・女性 Analyst 賞受賞候補者の推薦を受け付けております。

日本分析化学会会員で、標記候補者の推薦を希望される方は、下記の規程を参照のうえ、10 月末日までに所属支部の学会賞・学会功労賞・技術功績賞・奨励賞・女性 Analyst 賞候補者推薦委員会あてに、推薦理由書 [A4 判（縦に使用）用紙に 1,200 字以内] に文献リストと候補者の略歴を添えて、文書及び電子ファイルの双方にて、お申し出ください。

『学 会 賞 規 程』

- 第 1 条 本会に学会賞（以下本賞という）を設け、本会の正会員にして分析化学に関する貴重な研究をなし、その業績を本会論文誌およびその他の論文誌に発表した者の中から、特に優秀なる者にこれを贈呈する。ただし、学会功労賞受賞者および技術功績賞受賞者は受賞できない。また、同一年度の学会功労賞および技術功績賞の受賞候補者となることはできない。
- 第 2 条 本賞の贈呈は、毎年 3 件以内とする。
- 第 3 条 本賞は、賞状および賞牌とし、年会において贈呈する。
- 第 4 条 本賞を受けた者は、年会において学会賞受賞講演を行う。
- 第 5 条 会長は、各支部長に推薦を依頼するほか、毎年会誌「ぶんせき」7 号に本賞候補者の推薦に関する会告を掲載する。
- 第 6 条 支部長は、各支部ごとに学会賞・学会功労賞・技術功績賞・奨励賞候補者推薦委員会（以下支部推薦委員会という）を設ける。
- 第 7 条 会員は、その所属する支部推薦委員会に 10 月末日までに候補者を推薦することができる。
- 第 8 条 候補者の推薦にあたっては、所属支部の範囲に拘泥せず、全国的視野において行う。
- ＜以下省略＞

『学 会 功 労 賞 規 程』

- 第 1 条 本会に学会功労賞（以下本賞という）を設け、本会の正会員にして日本分析化学会および分析化学の発展に多大な貢献をなした者で、受賞の年の 1 月 1 日現在、30 年間以上引き続き本会会員であり、満 55 歳以上の者にこれを贈呈する。ただし、学会賞受賞者および技術功績賞受賞者は受賞できない。また、同一年度の学会賞および技術功績賞の受賞候補者となることはできない。
- 第 2 条 本賞の贈呈は、毎年 5 件以内とする。
- 第 3 条 本賞は、賞状および賞牌とし、年会において贈呈する。
- 第 4 条 会長は、各支部長に推薦を依頼するほか、毎年会誌「ぶんせき」7 号に本賞候補者の推薦に関する会告を掲載する。
- 第 5 条 支部長は、各支部ごとに学会賞・学会功労賞・技術功績賞・奨励賞候補者推薦委員会（以下支部推薦委員会という）を設ける。
- 第 6 条 会員は、その所属する支部推薦委員会に 10 月末日までに候補者を推薦することができる。
- 第 7 条 候補者の推薦にあたっては、所属支部の範囲に拘泥せず、全国的視野において行う。
- ＜以下省略＞

[注記] 学会功労賞は、次のような業績が対象となります。

- (1) 本会の発展に対する功績、(2) 分析化学の教育における功績、(3) 分析化学の国際交流における功績、(4) 本会の本部・支部の役員としての功績、(5) 本会の各種委員会・研究懇談会における功績、(6) 本会の本部・支部事業等における功績、(7) その他分析化学による社会的功績

『奨 励 賞 規 程』

- 第 1 条 本会に奨励賞（以下本賞という）を設け、本会の正会員にして受賞選考の時期までになされた分析化学に

お知らせ

関する研究が独創的であり、将来を期待させる研究者で、受賞の年の4月1日現在で満38歳以下の者に、女性もしくは企業に所属する者については受賞の年の4月1日現在で満45歳以下の者に贈呈する。

- ② 研究業績は、本会論文誌またはその他の論文誌、および特許等の知的財産を対象とし、いずれも公表されたものでなければならない。
- ③ 受賞の基礎となる研究業績が共同研究の場合は、主たる研究者について適用する。
- ④ 学会賞、学会功労賞、技術功績賞受賞者は、受賞できない。また、同一年度の学会賞、学会功労賞、技術功績賞の受賞候補者となることはできない。女性 Analyst 賞と同一内容で応募することはできない。

第2条 本賞は、毎年5件以内とする。ただし、大学および公的研究機関に所属する者については4件以内とする。1件以上は企業に所属するものに授与することが望ましい。

第3条 本賞は、賞状および賞牌とし、年会において贈呈する。

第4条 本賞を受けた者は、年会において奨励賞受賞講演を行うほか、本会論文誌「分析化学」に受賞研究に関する論文を投稿しなければならない。

第5条 会長は、各支部長に推薦を依頼するほか、毎年会誌「ぶんせき」7号に本賞候補者の推薦に関する会告を掲載する。

第6条 支部長は、各支部ごとに学会賞・学会功労賞・技術功績賞・奨励賞候補者推薦委員会（以下支部推薦委員会という）を設ける。

第7条 会員は、その所属する支部推薦委員会に10月末日までに候補者を推薦することができる。

第8条 候補者の推薦にあたっては、所属支部の範囲に拘泥せず、全国的視野において行う。

<以下省略>

『女性 Analyst 賞 規 程』

第1条 本会に女性 Analyst 賞（以下本賞という）を設け、本会会員、非会員にかかわらず、分析化学に関する優秀な業績をあげた女性研究者、女性技術開発者あるいは女性企業経営者に、これを贈呈する。ただし、学会賞、学会功労賞、技術功績賞受賞者は、受賞できない。また、同一年度の学会賞、学会功労賞及び技術功績賞の受賞候補者となることはできない。奨励賞と同一内容で応募することはできない。

第2条 本賞の贈呈は原則として毎年2件以内とする。

第3条 本賞は賞状および賞牌とし、年会において贈呈する。

第4条 本賞を受けた者は、年会において女性 Analyst 賞受賞講演を行うほか、本会論文誌「分析化学」に受賞研究に関する論文を投稿しなければならない。

第5条 会長は、各支部長、研究懇談会委員長並びに本会女性研究者ネットワークに推薦を依頼する。

第6条 推薦者は、1月末日までに推薦書、推薦理由書、履歴書及び説明資料を会長に提出する。

第7条 本賞候補者の選考は、女性 Analyst 賞審査委員会（以下審査委員会という）において行う。

<以下省略>

2026 年度技術功績賞候補者推薦について

日本分析化学会は、2026 年度の技術功績賞受賞候補者の推薦を受け付けております。

日本分析化学会会員で、標記候補者の推薦を希望される方は、下記の規程を参照のうえ、所属支部長または団体会員（維持会員、特別会員及び公益会員）代表者にお申し出ください。

『技 術 功 績 賞 規 程』

第1条 本会に技術功績賞（以下本賞という）を設け、本会会員にして分析技術の向上、あるいは、分析技術による社会的貢献に関し、業績の著しい者の中から、特に優秀なる者にこれを贈呈する。本賞は、本会正会員を中心とするグループに贈呈することもできる。ただし、学会賞受賞者および学会功労賞受賞者は受賞できない。また、同一年度の学会賞および学会功労賞の受賞候補者となることはできない。

第2条 本賞の贈呈は、毎年3件以内とする。

第3条 本賞は、賞状および賞牌とし、年会において贈呈する。

第4条 本賞を受けた者（グループにおいてはその中心になる者）は、年会において技術功績賞受賞講演を行うほか

お知らせ

か、本会論文誌「分析化学」に受賞研究に関する論文を投稿しなければならない。

第5条 会長は、各支部長に推薦を依頼するほか、毎年会誌「ぶんせき」7号に本賞候補者の推薦に関する会告を掲載する。

第6条 会員は、候補者を所属支部の支部長または団体会員代表者に推薦することができる。

第7条 支部長または団体会員（維持会員、特別会員及び公益会員）代表者は、候補者を会長に推薦する。

第8条 候補者の推薦に際しては、次の書類を1月末日までに会長に提出する。

a) 推薦書 [所定の用紙], b) 推薦理由書 [A4判用紙を縦（1行45字×40行）に使用し、本文及び業績リスト（主要なもの）はそれぞれ2頁以内で作成すること], c) 被推薦者履歴書 [所定の用紙], d) 説明資料 [特に重要な報告の別刷など審査の参考となる資料]

<以下省略>

[注記]

- 1) 推薦書の団体会員代表者は、本会に登録されている代表者名を記入してください（代表者を変更される場合は、あらかじめ変更届を提出してください）。
- 2) 所定の推薦書類を入用の場合は、返信用封筒（切手140円添付）を同封のうえ、下記技術功績賞係あてにお申し出ください。なお、電子ファイルをご希望の場合は shomu@jsac.or.jp へご連絡ください。
- 3) 推薦書類提出期限：2026年1月末日（郵送の場合は、当日消印のあるものまで受理します）。なお、推薦理由書が規程〔上記第8条b〕の書式、枚数〕に従っていない場合は受理しません。
- 4) 推薦書類提出先：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ304号 公益社団法人日本分析化学会技術功績賞係〔電話：03-3490-3351〕

2026年度先端分析技術賞候補者推薦について

日本分析化学会は、2026年度の先端分析技術賞受賞候補者の推薦を受け付けております。

標記候補者の推薦を希望される方は下記の規程を参照のうえ、10月末日までに日本分析化学会のいずれかの支部の支部長、研究懇談会の委員長、または（一社）日本分析機器工業会専務理事（JAIMA 機器開発賞）あてにお申し出ください。

『先端分析技術賞規程』

第1条 本会に先端分析技術賞（以下、本賞という）を設け、先端的分析技術開発（機器開発、分析・評価技術開発、分析用新規物質の開発、など）や実用化において、優秀なる業績と展開性を示した個人あるいはグループにこれを贈呈する。

第2条 本賞は、（一社）日本分析機器工業会（以下JAIMAという）のスポンサーシップによるJAIMA 機器開発賞によって構成される。

第3条 本賞は、毎年2件以内とする。

第4条 本賞は、賞状、賞牌及び副賞とする。

第5条 本賞を受けた者は、受賞記念講演を行うほか、本会論文誌「分析化学」に受賞研究に関する論文を投稿しなければならない。

第6条 本会会長は、毎年会誌「ぶんせき」7号に本賞候補者の推薦に関する会告を掲載するとともにJAIMA 機関誌夏号に掲載を依頼する。

第7条 本賞への応募者は自薦・他薦を問わず、本会支部長、本会研究懇談会委員長またはJAIMA 専務理事あてに必要な書類を定められた期日までに提出する。

第8条 支部長、研究懇談会委員長またはJAIMA 専務理事は、候補者を会長に推薦する。

第9条 候補者の推薦に際しては、次の書類を1月末日までに会長に提出する。

a) 推薦書 [所定の用紙], b) 推薦理由書 [A4判用紙を縦（1行45字×40行）に使用し、本文及び業績リスト（主要なもの）はそれぞれ2頁以内で作成すること], c) 被推薦者履歴書 [所定の用紙], d) 説明資料 [特に重要な報告の別刷など審査の参考となる資料]

<以下省略>

☆

☆

お知らせ

【照会先】支部の推薦委員会並びに研究懇談会宛先は下記のとおりです。

- 北海道支部 : 〒060-8628 北海道札幌市北区北 13 条西 8 丁目 北海道大学大学院工学研究院内
jsac-hb@w9.dion.ne.jp
- 東北支部 : 〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-11-604 東北大学大学院工学研究科内
kosuke.ino@tohoku.ac.jp
- 関東支部 : 〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 304 号 (公社)日本分析化学会
内
jsac-kanto@jsac.or.jp
- 中部支部 : 〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 1-35-18 中部科学技術センター内
bunseki@cstc.or.jp
- 近畿支部 : 〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町 1-8-4 大阪科学技術センター内
mail@bunkin.org
- 中国四国支部 : 〒770-8506 徳島県徳島市南常三島町 2-1 徳島大学大学院社会産業理工学研究部
mizu@tokushima-u.ac.jp
- 九州支部 : 〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡 744 九州大学大学院農学研究院
jsac_kyushu@jsac.jp

研究懇談会

- 液体クロマトグラフィー : nakamura@jsac.or.jp
- ガスクロマトグラフィー : satoh@niu.ac.jp
- 高分子分析 : infopacd@pacd.jp
- X 線分析 : shigeo.sato.ar@vc.ibaraki.ac.jp
- 化学センサー : hisamoto@omu.ac.jp
- 有機微量分析 : orgmicro@jsac.jp
- 分析試薬 : iki@tohoku.ac.jp
- 電気泳動分析 : kitagawa.shinya@nitech.ac.jp
- イオンクロマトグラフィー : ic@jsac.jp
- フローインジェクション分析 : jafia@jsac.jp
- 環境分析 : kumata@ls.toyaku.ac.jp
- 表示・起源分析技術 : kigen@jsac.jp
- 熱分析 : y24moto@kanagawa-u.ac.jp
- 化学分析技能 : michihisa.uemoto@meisei-u.ac.jp
- 溶液反応化学 : yumescc@chem.sc.niigata-u.ac.jp
- 電気分析化学 : maedak@kit.ac.jp
- ナノ・マイクロ化学分析 : ahihaba@chem.sci.isct.ac.jp
- バイオ分析 : info_bioanalysis@yoshimotolab.c.u-tokyo.ac.jp
- スクリーニング分析 : scr-info@jsac.jp

(一社)日本分析機器工業会専務理事宛先

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 2-5-16 名古屋ビル新館 6 階

第409回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー(LC)研究懇談会

後援 (公社)日本化学会, (公社)日本農芸化学会, (公社)日本分析化学会

近年、核酸やペプチド医薬に代表される中分子医薬、抗体医薬に代表される高分子医薬などのさまざまなモダリティの開発が活発に進められている。多種多様な創薬研究等において、質量分析計の役割は極めて高い。本例会では、バイオ医薬品等の分析に焦点をおき、質量分析メーカーを中心に、現状の進展について講演いただく。

期日 2025年7月18日(金) 13.00~17.00

会場 (株)島津製作所東京支社イベントホール〔東京都千代田区神田錦町1-3, 交通: ①地下鉄: 都営新宿線「小川町」駅, 東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅, 東京メトロ丸の内線「淡路町」駅のB7出口より徒歩6分, 東京メトロ銀座線「神田駅」より徒歩10分, ②JR「神田」駅西口より徒歩10分〕
<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/tokyo.html>

講演主題 ここまで出来る, 質量分析計を用いたバイオ医薬品分析

講演

講演主題概説(オーガナイザー)(13.00~13.20)

(株)東レリサーチセンター 竹澤正明

1. バイオ分析に役立つ質量分析基礎講座(13.20~14.00)

(浜松医科大学/株)フレッパーズ/

エムエス・ソリューションズ(株) 高橋 豊

(LC分析士二段, LC/MS分析士五段)

2. バイオ医薬品分野におけるアジレントの分析ワークフロー(14.00~14.30)

(アジレント・テクノロジー(株)) 軸丸裕介

(LC/MS分析士初段)

3. 多角的アプローチによるAAVカプシドタンパク質の特性解析(14.30~15.00)

(サーモフィッシュサイエンティフィック(株)) 永島良樹

(LC/MS分析士初段)

休憩(15.00~15.20)

4. 質量分析計を用いたバイオ医薬品の定量分析

(15.20~15.50)

(株)島津製作所 寺田英敏

(LC分析士二段, LC/MS分析士初段)

5. イオンモビリティ等を駆使したバイオ医薬品の分析(15.50~16.20)

(株)東レリサーチセンター 竹澤正明

(LC分析士三段, LC/MSマイスター)

6. 総括「バイオ医薬品に求められるMS」(16.20~16.50)

(東京理科大学) 中村 洋

(LCマイスター, LC/MSマイスター)

参加費 ①学生: 1,000円, ②LC懇・個人会員: 2,000円, ③

LC懇・団体会員: 3,000円, ④後援学会・個人会員: 4,000

円, ⑤後援学会・団体会員: 4,500円, ⑥その他: 5,000円。

参加申込締切後の受付はできませんので, ご了承ください。

情報交換会 終了後, 講師を囲んで情報交換会を開催します

(会費5,000円)。参加申込締切後のご参加はできませんので,

参加希望者は必ず事前にお申し込みください。

申込締切日

2025年7月11日(金)(入金締切時刻: 15時まで)

申込方法

1. 参加希望者は, 下記申込先にアクセスし, 氏名, 勤務先(電話番号), LC研究懇談会・個人会員, 協賛学会・個人会員, その他の別および情報交換会参加の有無を明記

のうえ, お申込みください。なお, 参加者名と振込者名が違う場合は, 参加申込書の連絡事項欄に振込者名を明記してください。

2. お申込みが完了した場合には, 登録されたアドレス欄に「第409回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は, ①入力したご自分のアドレスに間違いがないか, ②迷惑メールフォルダーをご確認のうえ, 世話人までお問い合わせください。

3. 申込み受付のメールを受領後, 必ず期限内に研究懇談会参加費, 情報交換会費の納入を行ってください。期限内に納入が確認できない場合, お申込みを無効とし参加URLを発行しませんので, 十分ご注意ください。当日払いは受け付けません。なお, いったん納入された参加費は, 返金いたしません。

4. 参加費の納入が確認できた方には, 2025年7月14日以降に要旨集をメールにてお送りいたします。必要に応じてプリントアウトしてご参加ください。また, 請求書の発行はいたしていません。

液体クロマトグラフィー研究懇談会(例会)参加費送金時のご注意

例会参加費, 情報交換会費を送金される場合, 下記を禁止しておりますので, ご理解のほどよろしくお願いいたします。

1. 複数例会の参加費の同時振込

(→例会ごとに振り込んでください)

2. 複数参加者の参加費の同時振込

(→参加者ごとに振り込んでください)

3. 年会費や他の費用との合算振込

(→費目ごとに振り込んでください)

申込先 <https://forms.gle/wHxNKtBAwFSH3Qaj6>

(学生申込者は, 所属欄に大学名, 学部, 学年を記載)

銀行送金先 りそな銀行五反田支店(普通)1754341, 口座名義: シヤ)ニホンブンセキカガクカイ〔公益社団法人日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

問合先 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人 (株)東レリサーチセンター 竹澤正明

[E-mail: masaaki.takezawa.f9@trc.toray]

2025年度第2回近畿支部講演会

主催 (公社)日本分析化学会近畿支部・近畿分析技術研究懇談会

期日 2025年7月25日(金) 15.00~16.00

会場 大阪科学技術センター7階700号室〔大阪市西区靱本町1-8-4, 電話: 06-6443-5324, 交通: 地下鉄四つ橋線「本町」駅下車, 北へ徒歩約7分, うつば公園北詰〕

講演

1. 酸と塩基の電気化学測定法の開発と食品分析への応用(15.00~16.00)

(大阪医科薬科大学薬学部) 小谷 明

参加費 無料

参加申込 標記行事名を題記し, (1)氏名, (2)勤務先(所属), (3)連絡先を記入のうえ, 下記申込先へFAXまたはE-mailにてお申し込みください。なお, 参加証は発行いたしませんので, 当日は直接会場にお越しください。

申込先 〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 (公社)日本分析化学会近畿支部〔電話: 06-6441-5531, FAX: 06-6443-6685, E-mail: mail@bunkin.org〕

※詳細は, 近畿支部ホームページ(<http://www.bunkin.org/>)にてご確認ください。

入門触媒科学セミナー

主催 (一社)近畿化学協会触媒・表面部会
 協賛 (公社)日本分析化学会近畿支部ほか
 期日 2025年10月7日(火)・8日(水)
 会場 大阪科学技術センター 4階 405号室
 プログラム

第1日(7日)10時~17時

1. 開会挨拶 (阪大院基礎工) 満留敬人
2. 触媒科学の基本概念—これだけは知っておこう—
(関西大環境都市工) 池永直樹
3. 遷移金属錯体触媒—錯体の基礎と有機合成触媒反応—
(阪公大院理) 亀尾 肇
4. 固体表面の酸・塩基点とその触媒機能
(阪公大院工) 田村正純

交流懇親会(無料)

第2日(8日)10時~17時

5. 金属酸化物触媒—多様な触媒機能の宝庫—
(京都工繊大材料化学系) 細川三郎
6. 金属ナノ粒子触媒—構造と触媒作用及び設計法—
(阪大院基礎工) 満留敬人
7. 触媒調製化学—基礎から最近のナノ構造触媒まで—
(阪大院工) 桑原泰隆
8. 閉会挨拶 (阪大院基礎工) 満留敬人

参加費・申込方法 詳細は

<https://kinka.or.jp/catalytic/> をご参照ください。

申込締切 9月11日(木)

申込・問合せ先 〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4
 近畿化学協会触媒・表面部会〔電話：06-6441-5531,
 FAX：06-6443-6685, E-mail：catal@kinka.or.jp〕

—以下の各件は本会が共催・協賛・
 後援等をする行事です—

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

熱測定講習会 2025

主催 日本熱測定学会
 期日 オンライン講義：2025年6月20日(金)、7月4日(金)、7月18日(金)/対面実習：2025年8月26日(火)
 会場 8月26日実習会場：東京理科大学神楽坂キャンパス6号館4階理科実験室
 ホームページ <https://www.netsu.org/2025lecture/>
 連絡先 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-15-9
 須磨マンション901 日本熱測定学会事務局 土信田裕子
 〔電話：03-6310-6831, E-mail：netsu@mbd.nifty.com〕

第37回イオン交換セミナー
「挑戦するイオン交換IX」

主催 日本イオン交換学会
 期日 2025年7月11日(金)
 会場 上智大学四ツ谷キャンパス
 ホームページ <http://www.jaie.gr.jp>
 連絡先 〒990-0021 山形県山形市小白川町1-4-12 山形大学大学院理工学研究科 遠藤昌敏〔電話：0238-26-3142, E-mail：endomasa@yz.yamagata-u.ac.jp〕

第13回対称性・群論トレーニングコース
(日本語講義・英語講義)

主催 日本結晶学会
 期日 (英語講義)2025年7月14日(月)~18日(金), (日本語講義)2025年7月28日(月)~8月1日(金)
 会場 高エネルギー加速器研究機構つくばキャンパス
 ホームページ <http://pfwww.kek.jp/trainingcourse/>
 連絡先 対称性・群論トレーニングコース事務局 高橋良美
 〔E-mail：tyoshimi@post.kek.jp〕

腐食防食部門委員会第361回例会

主催 (公社)日本材料学会
 期日 2025年7月31日(木)
 会場 大阪府教育会館たかつガーデン地下1階オリーブ
 ホームページ <http://www.jsms.jp>
 連絡先 〒606-8301 京都府京都市左京区吉田泉殿町1-101
 (公社)日本材料学会〔電話：E-mail：jimu@office.jsms.jp〕

第62回(2025年度)真空夏季大学

主催 (公社)日本表面真空学会
 期日 2025年8月26日(火)~29日(金)
 会場 八王子市生涯学習センター

ホームページ

<https://www.jvss.jp/jpn/activities/16/detail.php?eid=00028>

連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-16
石川ビル 5 階 (公社)日本表面真空学会事務局
〔電話：03-3812-0266, E-mail: office@jvss.jp〕

第 14 回環境放射能除染研究発表会

主催 (一社)環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会

期日 2025 年 8 月 27 日 (水)・28 日 (木)

会場 パルセいいざか

ホームページ

<https://khjosen.smoosy.atlas.jp/ja/kenkyu14>

連絡先 〒305-0061 茨城県つくば市稲荷前 24-10 A-102 号室 (一社)環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会事務局 丸山能生
〔電話：029-886-9227, E-mail: 14conf@khjosen.org〕

第 66 回顔料入門講座

主催 顔料技術研究会

期日 2025 年 8 月 28 日 (木)・29 日 (金), 9 月 4 日 (木)・5 日 (金)

会場 東京塗料会館/オンライン開催

ホームページ <https://shikizai.org/>

連絡先 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 3-12-8 東京塗料会館 201 (一社)色材協会事務局 原 剛
〔電話：03-3443-2811, E-mail: office@jscm.or.jp〕

日本分光学会夏期セミナー
光子相関分光法の基礎と応用

主催 (公社)日本分光学会

期日 2025 年 9 月 1 日 (月)

会場 オンライン

ホームページ https://www.bunkou.or.jp/bunkou/sponsored_event/20201286.html

連絡先 〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-11-6 大丸アネックス 201 号室 (公社)日本分光学会事務局
〔電話：03-3291-5221, E-mail: office@bunkou.or.jp〕

2025 年鉄鋼分析国際会議

2025 International Conference for
Analysis in Steel Industry

主催 日本鉄鋼協会

期日 2025 年 9 月 11 日 (木)~13 日 (土)

会場 徳島大学常三島キャンパス

ホームページ

<https://conference-lab.org/ICASI2025/index.html>

連絡先 〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1 徳島大学理工学部機械科学コース 出口祥啓〔電話：090-8396-4826, E-mail: ydeguchi@tokushima-u.ac.jp〕

講演会「PFAS 規制対応と代替材料開発」

主催 (公社)日本化学会関東支部

期日 2025 年 9 月 12 日 (金)

会場 オンライン

ホームページ

<https://kanto.csj.jp/event/2025/05201436483851/>

連絡先 〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5

(公社)日本化学会関東支部

〔電話：03-3292-6161, E-mail: kanto@chemistry.or.jp〕

第 11 回材料 WEEK

主催 (公社)日本材料学会

期日 2025 年 10 月 6 日 (月)~9 日 (木)

会場 京都テルサ

ホームページ <http://www.jsms.jp>

連絡先 〒606-8301 京都府京都市左京区吉田泉殿町 1-101

(公社)日本材料学会

〔電話：075-761-5321, E-mail: jimu@office.jsms.jp〕

第 76 回白石記念講座
鉄鋼業への貢献が期待される CCUS 技術 (1)
— CO₂ 分離回収・炭素循環技術—

主催 (一社)日本鉄鋼協会

期日 2025 年 11 月 26 日 (水)

会場 鉄鋼会館会議室

ホームページ <https://www.isij.or.jp/event/index.html>

連絡先 (一社)日本鉄鋼協会 育成グループ

〔電話：03-3669-5933, E-mail: educact@isij.or.jp〕

第 63 回高分子と水に関する討論会

主催 (公社)高分子学会 高分子と水・分離に関する研究会

期日 2025 年 12 月 12 日 (金)

会場 東京都市大学世田谷キャンパス

ホームページ <https://member.spsj.or.jp/event/>

連絡先 〒104-0042 東京都中央区入船 3-10-9

新富町ビル 6F (公社)高分子学会 次長 杉本伊知郎

〔電話：03-5540-3770, E-mail: sugimoto@spsj.or.jp〕

nano tech 2026 第 25 回国際
ナノテクノロジー総合展・技術会議
イノベーションで未来のビジネスを拓く

主催 nano tech 実行委員会

期日 2026 年 1 月 28 日 (水)~30 日 (金)

会場 東京ビッグサイト

ホームページ <https://www.nanotechexpo.jp/>

連絡先 〒105-8335 東京都港区芝 3-23-1 セレスティン

芝三井ビルディング nano tech 実行委員会 (株)JTB コミュニケーションデザイン内) 中村理香

〔電話：03-5657-0760, E-mail: nanotech@jtbcom.co.jp〕

日本分析化学会第74年会 —オンライン参加予約申込方法—

標記年会を下記のように開催します。本年会に参加される方は、全員参加登録をしていただきます。年会当日に参加登録証をご提示ください。参加登録は、オンライン参加申込登録システム（以下、参加登録システムと略）で行ってください。参加登録の詳細は第74年会 Web サイト（以下、年会 Web と略）をご参照ください。講演要旨集は電子配布します。講演プログラム集は、年会当日に会場にてお渡しいたします。

【日本分析化学会第74年会実行委員会 Web サイト】

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jsac74nenkai>

主催 (公社)日本分析化学会

会期 2025年9月24日(水)～26日(金)

日程

9月24日(水)：一般講演(口頭)、若手講演(ポスター)、ランチョンセミナー、産業界シンポジウム、機器展示会

9月25日(木)：一般講演(口頭)、若手講演(ポスター)、ランチョンセミナー、キャリアデザイン交流会、授賞式、受賞講演、懇親会、ものづくり技術交流会、機器展示会

9月26日(金)：一般講演(口頭)、一般講演(ポスター)、テクノレビュー講演(口頭)、高校生講演(ポスター)、ランチョンセミナー、公開シンポジウム、機器展示会

注) 日程は変更することがあります。

主会場 北海道大学工学部〔札幌市北区北13条西8丁目、交通：JR札幌駅より地下鉄南北線麻生方面行で「北12条」駅下車、北大13条門を経て徒歩約12分。または、JR札幌駅北口から徒歩で北大正門を経て約20分〕

<https://www.eng.hokudai.ac.jp/access/>

懇親会 9月25日(木) 18時～20時

懇親会会場 札幌グランドホテル〔札幌市中央区北1条西4丁目〕

【事前参加登録申込方法】

以下の注意事項を熟読のうえ、申込締切期日までに事前参加登録してください。参加登録の詳細は年会 Web をご参照ください。事前参加登録申込の締切日は**8月6日(水)**です(クレジットまたは銀行振込)。例年より締切日が早いのでご注意ください。

1. 参加証は、事前に年会 Web からダウンロード後、印刷してご参加ください。
2. 懇親会に参加される方は、事前に予約してください。会期中は、定員に余裕のある場合のみ受け付けます。
3. 参加登録料などの諸費用は、一切返金できません。
4. 見積書、納品書、請求書は、原則として発行しません。必要な方は、問い合わせ先(74nenkai@jsac.jp)までご連絡ください。

【事前参加登録のお支払い期日】

事前参加登録料でのお支払い期日：8月6日(水)

通常参加登録料でのお支払い期日：9月26日(金)

【参加登録料・懇親会参加費】

参加登録料 事前(8月6日まで)：会員12,000円、学生会員4,000円、会員外21,000円、会員外学生7,000円〔通常：会員15,000円、学生会員6,000円、会員外24,000円、会員外学生8,000円〕

注) 会員には団体会員(維持会員)に所属する方を含みますが、特別会員および公益会員の場合は、1名に限り会員扱いとなります。なお、会員の方の参加登録料は不課税扱いです。会員外、会員外学生は税込金額です。

懇親会参加費 事前：一般14,000円、学生5,000円〔通常：一般16,000円、学生7,000円〕※参加者多数の場合、受付を締め切る場合があります。

注) 懇親会参加費はすべて税込金額です。

【Web版講演要旨集の閲覧方法】

9月1日(金)に年会 Web にて公開を予定しております。閲覧には参加登録が必要です。

【ご注意】本年会へ参加登録をされた皆様は、10月27日(月)まで閲覧・ダウンロードが可能です。10月28日(火)以降は閲覧できません。

その他

講演プログラム集は年会当日に総合受付で参加者にお渡しします。なお、講演プログラム速報版を7月下旬に年会 Web に掲載の予定です。

【口頭発表者へのご案内】

本年会では、すべての口頭発表において、全会場にプロジェクター、接続ケーブル(HDMIケーブル)、PC切替器(モニター切替器)を用意します。講演者(登壇者)は講演データの入ったノートPCを持参してください。

【ポスター発表をされる皆様へ】

本年会のポスター発表方法等は、年会 Web をご参照のうえ準備してください。

【若手ポスター賞について】

若手ポスター発表の中から複数の優秀なポスター発表を選定し、表彰いたします。

【講演要旨集の発行日について】

日本分析化学会第74年会 Web版講演要旨集の発行日は、2025年9月1日(月)を予定しております。特許出願の際は、下記の特許庁ホームページを参照のうえ、弁理士にご相談いただきますようお願いいたします。なお、講演発表者の特許出願にあたり、特許法第30条1項(発明の新規性喪失の例外)の適用を受けるための手続きが簡素化されています。詳細は下記の特許庁ホームページをご参照ください。

<http://www.jpo.go.jp>

【宿泊等について】

実行委員会では宿泊先等にかかる斡旋は行いません。

【託児について】

日本分析化学会第74年会では託児所を準備する予定です。希望される方は年会 Web をご参照のうえ、メールでお問い合

わせください。

【展示会等出展のお願い】

機器・カタログ展示およびランチョンセミナー

主催 第74年会実行委員会

分析・計測機器関連のメーカー・販売会社、分析技術提供会社、関連書籍出版社と年会参加者の相互交流・情報交換の場として、機器展示会およびカタログ展示会を開催します。

また、年会期間中の昼休みを利用してランチョンセミナーを開催しますので、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

【機器・カタログ展示会】

開催日 9月24日（水）～26日（金）

会場 北海道大学体育館（ポスター会場内）

募集締切日 7月18日（金）

【ランチョンセミナー】

日時 9月24日（水）～26日（金）12時10分～13時00分（予定）

会場 北海道大学工学部（年会講演会場）

開催費用 150,000円（税別）

※セミナー運営に関する費用（昼食用弁当など）は別途。

募集締切日 7月18日（金）

問合・申込先 〒104-0061 東京都中央区銀座7-12-4（友野本社ビル）（株）明報社（担当：幸村・後藤）〔電話：03-3546-1337, FAX：03-3546-6306, E-mail：info@meihosha.co.jp〕

※展示会およびランチョンセミナーの詳細は（株）明報社にお問い合わせください。

【シンポジウム】

【ものづくり技術交流会】

【みんなのキャリアデザイン交流会】

【生涯分析談話会】

開催予定です。

※詳細は年会Webに掲載予定です。

なお、日本分析化学会第74年会の期間中に、ASIANALYSIS XVII 2025を同時開催いたします（9月23日～9月26日）。ASIANALYSISは、隔年で開催されているアジアにおいて重要な分析化学に関する国際会議です。分析年会参加登録者は、ASIANALYSIS XVIIの参加登録料が割引になります。詳細は年会Webをご覧ください。

「分析化学誌」特集「持続可能な社会に貢献する
ガスクロマトグラフィーと
GC誕生70年のあゆみ」の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、ガスクロマトグラフィー研究懇談会（GC懇）と共同で「持続可能な社会に貢献するガスクロマトグラフィーとGC誕生70年のあゆみ」と題した特集を企画しました。ガスクロマトグラフィー（GC）は誕生から約70年が経ち、現在は環境、食品、生体など幅広い分野に応用されています。検出器の開発や改良によって、高感度分析や選択的分析などさまざまな発展を見せています。本特集号では、GCに関する試料前処理、分離・分析技術、検出技術、データ解析など幅広い論文の投稿を募集しております。詳細はホームページをご確認ください。

特集論文申込締切：2025年8月29日（金）

特集論文原稿締切：2025年10月17日（金）

「分析化学」年間特集“波”論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より年間特集を企画し、企画テーマに関連する論文を年間を通じて掲載しています。2026年のテーマを「波」と決定しました。

「波」は光の波長と波数を想起させることから、分光分析の基礎および応用についての論文を募集します。例えば以下のような研究について募集を行います。

- 1) 将来的に分析化学に応用される可能性をもった分光測定法の開発
- 2) 分光分析による構造解析、定量、微量検出、化学種同定。
- 3) 表面分光・顕微分光による局所測定とイメージング
- 4) 分光法と類似の情報が得られる中性子や超音波を用いた測定
- 5) 多変量解析や理論計算による分光測定結果からの情報の抽出

一方で、「波」は直接、海や川の表面に起こる波を連想させます。本特集においては、海洋や河川の表層または岸辺を対象とした環境分析についても論文を募集します。

本特集に関わる論文は年間を通じてご投稿いただくことが可能で、審査を通過した論文は、単行の特集号を除く「分析化学」第75巻（2026年）合併号の冒頭に掲載する予定です。多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。

特集論文申込締切：2025年7月18日（金）（第1期）

特集論文原稿締切：2025年8月22日（金）（第1期）

「分析化学討論会」特集の論文募集（案）

「分析化学」編集委員会

「分析化学」誌では、毎年第12号に分析化学討論会特集号として、分析化学討論会の討論主題に関連した論文を掲載しております。第85回分析化学討論会では、「化学物質の環境リスクと分析化学」、「生物機能を調査&利用する分析化学」、「科学捜査で役立つ分析化学」、「医薬品・バイオマーカーを定量し、疾患を可視化する分析化学」、「生体試料を対象とする分離分析でのデータサイエンスの活用」、「発酵と酒と泡と分析化学」の6テーマを討論主題として取り上げました。

そこで、2025年度の分析化学討論会特集号では、「多種多様な分析対象に適應する分析化学技術の新潮流」をテーマにしました。本テーマにおいて、第85回分析化学討論会で設けた6つの討論主題に関する論文を広く募集します。多数のご投稿をお待ちしております。詳細は「分析化学」74巻6号及びホームページをご覧ください。

特集論文の申込締切：2025年7月11日（金）

特集論文の原稿締切：2025年8月8日（金）

初めて書く論文は母語の日本語で！
“第24回初執筆論文特集”募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、2025年（第74巻）に企画しております第24回「若手研究者の初論文特集」の特集名称を変更し、第24回「初執筆論文特集」として原稿を募集いたします。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載に

り次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。
なお、詳細は「分析化学」誌 HP をご参照ください。

『ぶんせき』再録集 vol. 3 出版のお知らせ

日本分析化学会の機関月刊誌『ぶんせき』の再録集 vol. 3 が出版されました！ 初学者必見！ 質量分析・同位体分析の基礎が詰まった 293 ページです。

本書は書籍化の第三弾として、「入門講座」から、質量分析・同位体分析の基礎となる記事、合計 42 本を再録しました。

『ぶんせき』では、分析化学の初学者から専門家まで幅広い会員に向けて、多くの有用な情報を提供し続けています。これまで掲載された記事には、分析化学諸分野の入門的な概説や分析操作の基礎といった、いつの時代でも必要となる手ほどきや現役の研究者・技術者の実体験など、分析のノウハウが詰まっています。

〈2003 年掲載 1 章 質量分析の基礎知識〉

1. 総論
2. 装置
3. 無機物質のイオン化法
4. 有機化合物のイオン化法
5. ハイフェネーテッド質量分析 I
6. タンデムマススペクトロメトリー
7. 無機材料の質量分析
8. 生体高分子の質量分析
9. 医学、薬学分野における質量分析法
10. 食品分野における質量分析法
11. 毒物検査、鑑識分野における質量分析法
12. 環境化学分野における質量分析法

〈2009 年掲載 2 章 質量分析装置のためのイオン化法〉

1. 総論
2. GC/MS のためのイオン化法
3. エレクトロスプレーイオン化—原理編—
4. エレクトロスプレーイオン化—応用編—
5. 大気圧化学イオン化
6. 大気圧光イオン化
7. レーザー脱離イオン化
8. イオン付着質量分析
9. リアルタイム直接質量分析
10. 誘導結合プラズマによるイオン化
11. スタティック SIMS
12. 次世代を担う新たなイオン化法

〈2002 年掲載 3 章 同位体比分析〉

1. 同位体比の定義と標準
2. 同位体比測定の精度と確度
3. 同位体比を測るための前処理法
4. 同位体比を測るための分析法
5. 生元素の同位体比と環境化学
6. 重元素の同位体比

〈2016 年掲載 4 章 精密同位体分析〉

1. 同位体分析の基本原理
2. 表面電離型質量分析計の原理
3. 表面電離型質量分析計の特性とその応用
4. ICP 質量分析法による高精度同位体分析の測定原理
5. マルチコレクター ICP 質量分析装置による金属安定同位体分析
6. 加速器質量分析装置の原理
7. 加速器質量分析の応用
8. 小型加速器質量分析装置の進歩と環境・地球化学研究への応用
9. 二次イオン質量分析装置の原理

10. 二次イオン質量分析計を用いた高精度局所同位体比分析手法の開発と応用
 11. 精密同位体分析のための標準物質
 12. 質量分析を用いた化合物同定における同位体情報の活用
- なお『ぶんせき』掲載時から古いものでは 20 年が経過しており、執筆者の所属も含め現在の状況とは異なる内容を含む記事もありますが、『ぶんせき』掲載年を明記することで再録にともなう本文改稿を割愛しました。これらの点については、執筆者および読者の方々にご了承いただきたく、お願い申し上げます。

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に付ける必要があると考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
 - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
 - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
 - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
 - 4) 分析に必要な試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
 - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
 - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会 [E-mail : bunseki@jsac.or.jp]